

令和4年度愛知県献血推進協議会議事録

(1) 日時・場所

令和4年1月26日(木) 午後2時から午後3時30分まで

愛知県庁本庁舎6階 正庁

(2) 出席委員(17名) (順不同、敬称略) (注)◎:議長

尾方 俊男、安達 一樹、倉元 須麻子、伊藤 和子、馬場 茂、澤田 和幸、

河合 貴文、山本 晴彦、木下 朝博、湯口 諒士、松下 正、市川 真、

長屋 知子、撫井 賀代、小河 敬臣、子安 春樹、◎小栗 信

(3) 代理出席者(5名) (順不同、敬称略) (注)カッコ内は委員氏名

清水 俊次(佐久間 啓彰)、河合 貴文(竹内 清美)、宍井 恵子(横井 英行)、

鈴木 光晴(沼澤 弘平)、坪井 信二(近藤 良伸)

(4) 欠席委員(5名) (順不同、敬称略)

永井 雅彦、坂野 元彦、本多 恭子、田那村 収、佐藤 公治

○ 開会

医薬安全課・稲熊担当課長

定刻になりましたので、ただ今から令和4年度愛知県献血推進協議会を始めさせていただきます。それでは、開催にあたりまして、愛知県保健医療局生活衛生部 小栗部長から御挨拶申し上げます。

1 挨拶

愛知県保健医療局生活衛生部・小栗部長

本日はお忙しい中、令和4年度愛知県献血推進協議会に御出席いただき、ありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症対策にそれぞれのお立場から御尽力いただき誠にありがとうございます。県といたしましても、引き続き対応に努めてまいりますので、御理解御協力のほどよろしくお願いいたします。

本協議会は、愛知県における献血の普及啓発、そして、血液を安定的に確保・供給するための体制づくりについて協議するために開催するものです。

さて、今年度の本県における献血の状況でございますが、関係の皆様のおかげをもちまして、昨年4月から12月末までに22万人を超える方々に御協力をいただいております。

これは、今年度の献血目標の74.8%にあたり、計画どおりに進んでおります。これも、県民の皆様の温かい御理解と関係者の皆様の日頃からの熱心な推進活動の取組の賜物であり、大変ありがたく、心強く思っております。

しかしながら、少子高齢化社会を迎え、献血できる方の人数は減少しつつあります。加えて、近年は若い方による献血率は依然として低く、血液事業を安定的・継続的に維持できるよう広く理解を求めていく必要があります。

このため、愛知県におきましては、市町村、日本赤十字社と連携しながら、献血運動の一層の推進を図るため「愛の血液助け合い運動」や「はたちの献血キャンペーン」など様々なキャンペーンを実施しているところでございます。また、平成29年度から開始した「卒業献血キャンペーン」や「10代夏の献血キャンペーン」など高校生を対象とした啓発活動も継続しており、コロナ禍により若年層の献血率が減少したものの、徐々にではありますが、コロナ禍以前の水準に戻りつつあります。

今後とも県民の方々の献血に対する理解が更に深まるよう、皆様の御理解と御支援をいただきながら各種取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、本日は、来年度の「愛知県献血推進計画」を策定するに当たりまして、委員の皆様から御意見・御提言をいただき、今後の施策に反映してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

最後に、本日、御出席の皆様方の共通の願いというのは、県民の皆様の健康、安全、安心だと思っております。その願いに向かって共に考え、共に行動していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

資料確認・議長選出

医薬安全課・稲熊担当課長

会議の内容につきましては、「愛知県献血推進協議会設置要綱」の第6第2項により、原則として公開することになっております。後日、本日の会議録を御出席の委員の皆様にご確認いただいた後、当課のホームページに載せさせていただきますので、御承知ください。

続きまして、本来ならここで、御出席いただきました委員の方々をお一人ずつ御紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りしております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

なお、次にお名前を申し上げます委員につきましては、事前に欠席の御連絡をいただいております。

愛知県議会福祉医療委員会委員長の永井様、愛知県商工会議所連合会の坂野様、健康保険組合連合会愛知連合会の本多様、公益財団法人愛知県医師会の田那村様、一般財団法人愛知県病院協会の佐藤様以上の5名でございます。

ここでお手元の資料の確認をお願いします。

(資料の確認)

もし足りないようでしたらお知らせくださいますようお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、議事に移らせていただきます。会議の議長は、協議会設置要綱第5により、委員の中から互選により選出された会長が務めることとなっております。事務局案としましては、県の生活衛生部長を会長とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、小栗部長、議長席をお願いします。

2 報告事項

議長・小栗部長

それでは、よろしくをお願いします。

本協議会は、献血思想の普及や安全で良質な血液の安定確保などのため設置されております。そのため、本日は是非皆様の御意見・御提言等を賜り、また御協議願いたいと思いますので、よろしくをお願いします。

では、早速議事に入りたいと思います。

皆様方の御協力をいただき、スムーズな進行が出来ますよう、よろしくをお願いします。

それでは、「報告事項」から入らせていただきます。

なお、御意見等につきましては、すべての報告事項及び議題が終わった後で、一括してお伺いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

始めに、報告事項(1)の「血液事業の現状」及び(2)「令和4年度血液事業概要」について、事務局から報告してください。

(1) 血液事業の現状について

医薬安全課・竹澤課長補佐

医薬安全課の竹澤でございます。血液事業の現状につきまして、報告いたします。

お手元の冊子「愛知県献血推進協議会 資料」の1ページをご覧ください。

はじめに、愛知県における年度別献血目標及び達成状況について、御報告します。

表の下段、令和4年度の献血者数の欄を御覧ください。

令和4年度の目標達成状況ですが、目標の297,970人に対しまして、222,924人であり、12月末時点での達成率は74.8%となっております。

資料の2ページをご覧ください。2ページ以降の数値につきましては、4月から3月までの年度ではなく、1月から12月までの年計となっておりますのでご注意ください。

ページ上段をご覧ください。愛知県における令和4年の献血者数は295,304人で、前年より265人増加しております。

ページ下段の全国の令和4年の献血者数は、速報値では4,994,576人となっており、92,427人減少しております。なお、未集計部分は空欄とさせていただきます。

資料の4ページをご覧ください。年齢別の献血者数の推移です。ページ上段が愛知県の状況、ページ下段が全国の状況で、年齢別構成比のグラフを見ていただきますと、双方におきまして、献血者数は50歳代が最も多くなっており、40歳代及び50歳代で全体の約54%を占める一方で、10歳代は約4%、20歳代、30歳代は約15%であり、引き続き、若年層の献血者の確保が課題となっております。

ここで43ページ、44ページを御参照ください。平成15年から令和4年までの愛知県と全国の年代別献血状況をお示しました。これによりますと、本県の人口100人当たりの献血者数を示す献血率において、10代に関しましては、減少傾向にありましたが、平成29年から増加に転じ、平成29年から令和元年にかけては0.6%増加となっております。しかし、令和2年、3年は新型コロナウイルス感染症の影響により、平成29年程度の割合となっております。そして令和4年は令和元年に近い水準に戻っております。

また、49ページの上段を御覧ください。高校生の献血者数は令和元年度から令和3年度にかけて、全国、愛知県ともに減少しています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、献血を行う機会が減少してしまったことが考えられます。

毎年、全国で展開されます「はたちの献血キャンペーン」に加えまして、愛知県赤十字血液センターに協力する形で、主に高校生を対象とした「10代夏のキャンペーン」、「卒業献血キャンペーン」などの取組をページ下段のとおり行いました。

これらの取組を継続することで、10代の献血率を引き続き上げていきたいと考えております。

資料の5ページへお戻りください。ページ中段の移動採血における献血状況ですが、職域における献血者数が全体の4割以上を占めております。また、ページ下段の職業別の状況を見ましても、会社員が6割以上を占めており、企業、事業所の方に多大な御協力をいただいております。

資料の7ページをご覧ください。愛知県における血液製剤の供給状況の推移を示しております。

令和4年は実本数で、愛知県内の医療機関に成分製剤を256,429本供給しております。前年と比較しますと減少しておりますが、医療機関からの供給要請に対して、滞りなく供給ができております。

資料の8ページをご覧ください。その他として、献血者の状況をまとめております。(1)の回数別実献血者数ですが、1年間に2回以上御協力をいただいた献血者数も増加しておりますが、依然として、1回だけの献血者が約6割を占めております。この方々をいかにしてもう1回献血会場へ足を運んでいただくかが課題となっております。

このほか、9ページから令和4年の市町村別献血実績について掲載しておりますので、後ほど御覧ください。

血液事業の現状につきましては、以上です。

(2) 令和4年度血液事業概要について

医薬安全課・竹澤課長補佐

引続き、報告事項(2)、令和4年度血液事業概要について報告いたします。資料の13ページを御覧ください。

まず、(1)ですが、毎年7月の1ヶ月間、全国一斉に「愛の血液助け合い運動」が展開されています。

愛知県では1つ目の白丸、愛知県献血運動推進大会を3年ぶりに7月に開催し、長年献血に御協力いただきました個人及び団体に大臣表彰、知事感謝状等の贈呈を行いました。

2つ目の白丸、地域における啓発活動等を県保健所が各市町村、関係団体などと協力して、可能な範囲で実施しました。

3つ目の白丸、献血活動市町村支援としましては、市町村の街頭活動を支援するため、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」を活用したウェットティッシュを4,700個作成して配布しました。

続いて、(2)「複数回献血キャンペーン」について報告します。年2回以上の400mL献血を推進するため、昨年7月から本年3月にかけて「400mL複数回献血キャンペーン」を行っております。

キャンペーンを周知するためのポスター4,000枚を作成、配布するとともに、複数回の400mL献血に協力していただいた方には、記念品を配布しております。

続いて、資料の14ページ(4)の「夏休み親子血液教室」についてですが、小学生の親子を対象として4日間、開催しました。

また、このほか、若年層への啓発事業としましては、(5)「はたちの献血」キャンペーンの実施、(6)若年層啓発資材の作成、配布を行いました。

昨年度に引き続き、愛知県赤十字血液センターに協力する形で、「10代夏の献血キャンペーン」として、県内の全ての高校2年生、3年生にリーフレットを配布したほか、14ページを御覧いただきまして「卒業献血キャンペーン」として、県内の全ての高校3年生にリーフレットを配布しました。

資料の16ページをご覧ください。(11)の「広報関係事業結果」につきましては、表にありますようにテレビ、ラジオ、新聞等できるだけ多くの媒体を活用いたしまして、献血の広報に努めました。

事務局からの令和4年度血液事業概要の報告は以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございました。ここで、実際に献血事業を行うお立場から、愛知県赤十字血液センターの木下委員にお話いただきたいと思います。よろしくお願いします。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

愛知県赤十字血液センターの木下でございます。

皆様には平素より血液事業に多大なるご理解、ご協力賜りまして、厚く御礼申し上げます。

ただいま事務局からご説明ございましたけれども、私の方からも少々説明させていただきたいと思います。

はじめに資料1ページの年度別献血目標及び達成状況についてですけれども、供給計画及び国から示された原料血漿確保量に基づき、必要量を算定し、過不足のない採血を行っております。

令和4年度におきましても、12月までの献血者数の実績で達成率は、ご説明ありました通り74.8%、年度での達成率もほぼ100%と見込んでおり、必要量を確保できております。

資料2ページをご覧ください。令和4年の献血者数ですけれども、先ほども報告ありました通り295,304人、これは、昨年が295,039人ということですので、令和4年からの増加数としては265人で0.1%の増加ということになっております。

一方、供給数でございますが、資料7ページをご覧ください。製剤ごとに差があるものの、令和4年の供給数は256,429本、昨年が263,832本でしたので、減少数としては7,403本、2.8%減少しております。

これは医療機関の需要に対して、安定的に供給するために、献血ルームにおいて、需要に応じた献血種別、採血を進めたこと、また成分献血におきましては、献血者おひとりおひとりの体重に応じた最大採取量まで採血を増量するなど、少ない献血者数で効率的な採血を行うことにより、必要な血液量を確保し、本年度も各医療機関の需要に対して、安定的に供給できていると考えております。

少し戻りますけれども、4ページをご覧ください。10代の献血者数につきましては、13,897人でしたので、これは昨年から1,341人増加しております。高校生につきましては資料の5ページ、6,043人と昨年から360人増加しております。

これは10代の献血者について、令和2から4年はコロナの影響を受けまして、大学での献血ができないなどの原因により一時的に減少しておりましたが、回復傾向にあると考えております。

これは10代の人口が減少する中、愛知県、愛知県教育委員会、及び、学校関係の皆様にご協力いただきまして、ご説明のありましたような、卒業献血キャンペーンや10代夏の献血キャンペーンなど、若年層対策を平成29年度から継続的に実施することができ、効果があらわれているものと考えております。

大学生につきましては、学生献血連盟を中心に、献血推進にも携わっていただいております。コロナ禍を経て再開したサマー献血キャンペーンや、クリスマス献血キャンペーンなどでは、同世代に向けた発信力の強さをいかに発揮していただいております。

また、血液センターでは、高校、大学、専門学校の生徒を対象に、今年度12月末までに12回のセミナーを開催し、1,522名の学生に参加していただきました。

他にも、中学、高校の職場体験を積極的に受け入れ、血液の検査、製剤、供給部署の見学や献血の呼びかけといった業務体験をしていただくとともに、高校生については、献血にもご協力いただいております。

そして将来の輸血医療を支える世代となる小学生幼少期の方々への献血啓発にも力を入れており、ショッピングモールにおけるイベント等において、パネル展示や献血のことがわかりやすく理解できるアニメーションDVDの配布を行いました。

これは小学校の生徒さんを対象にわかりやすいようにアニメーションとして作ったものですが、**「なるほど献血」**とY o u T u b eで検索していただきますと、どなたでもご覧いただくこともできますので、もしもご興味があればぜひ一度ご覧いただければと思います。

また、献血W e bサービス「ラブラッド」につきましては、今年度9月にアプリ版をリリースし、アプリ版献血カードや事前ウェブ問診回答機能の導入、プレ会員の登録等を開始いたしました。これはリーフレットを資料に入れさせていただいておりますので、またご覧いただければと思います。

現在200,412名の会員の登録をいただいているところであり、メールによる献血の協力依頼も行っております。

年間複数回にわたり、献血の協力を得ることによって、血液を安定的かつ効率的に確保するだけでなく、アプリからの献血予約や検査サービスの閲覧など、献血者の利便性の向上に寄与する「ラブラッド」会員の登録についても引き続き促進して参ります。

私からの説明は以上でございます。

議長・小栗部長

ありがとうございました。「血液事業の現状」及び「令和4年度血液事業概要」について報告がありましたが、御質問、御意見等につきましては、次の議題と併せて一括して承りたいと思います。

3 議題 令和5年度愛知県献血推進計画について

議長・小栗部長

それでは、次に議題の「令和5年度愛知県献血推進計画」について、事務局から説明してください。

医薬安全課・竹澤課長補佐

令和5年度愛知県献血推進計画について、説明させていただきます。

まず、資料の20ページ、「令和5年度愛知県献血推進計画（案）」をお開きください。

本献血推進計画につきましては、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の規定により、国の定める基本方針と国の計画に基づき、協議会の意見を踏まえて翌年度の推進計画を定めることとなっております。

国の計画については12月末に案が示されているのみではありますが、それを参考に県の計画案を作成させていただきました。本日、御意見をいただいたうえで、3月末頃に策定される最終的な国の計画と照らし合わせ、4月当初に県の献血推進計画を策定し、ホームページ等で公表する予定としております。

なお、資料の27ページからは、「前年度からの主な変更点」、28ページからは、「新旧対照表」をつけておりますが、変更点としては、目標人数の変更及び成年年齢引き下げに伴う文言整理及び国の計画の文言整理に併せたものでございます。

また、国の計画及び新旧対照表は、参考資料の12ページから24ページにお付けしておりますので、参考としてください。

それでは、改めまして20ページ、令和5年度愛知県献血推進計画（案）の主な内容を説明させていただきますので、上段部分を御覧ください。なお、下線部分は前年度との変更点となります。

第1では献血の推進に関する「基本的な考え方」を、第2では献血受入計画に関わる県、市町村、血液センターなどの「関係者の役割」を、第3では「献血目標量の設定」について示してあります。

次のページ、資料の21ページの上段の表「種類別目標数」をご覧ください。令和5年度に確保すべき種類別目標数を示してございます。

数値を記載した縦の列が4列ありますが、その一番左、献血目標人数を見ていただきますと、上から、

200mL献血により5,300人、400mL献血により174,310人、一行飛ばしまして、血漿成分献血により70,920人、血小板成分献血により35,540人、一行飛ばしまして、合計286,070人の献血者の確保を目標とします。

この目標値は、前年の297,970人と比較し、11,900人減少となっておりますが、後ほど、この理由につきましては、計画の原案を作成した愛知県赤十字血液センター様にも御説明をお願いしたいと思います。

また、各区分の献血目標は、5年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績と、国が算出した5年度の原料血漿の確保目標量、さらに、血液製剤の期限切れや検査不合格等も考慮した上での数量となっております。なお、令和5年度の愛知県における原料血漿確保目標量は、71,760リットルとなっております。

続いて、資料の25ページをお開き願います。令和5年度の市町村別の献血目標を示してあります。各市町村の200mL献血と400mL献血の目標は、一番右端の列にある各市町村別の過去3年間の移動採血車の配車実績から算出しております。各市町村別の配車実績につきましては、参考資料の10から11ページに示しておりますので、参考にしてください。

また、成分献血については、血液センター及び献血ルームで採血します。

なお、少しお戻りいただきますが、20ページ中段・第2関係者の役割の2において、市町村には、移動採血車による献血を確保するため、血液センターの受入計画のもと、献血会場の確保等の協力をお願いしておりますので、御承知ください。

続いて、資料の21ページの中段をご覧ください。第4の「献血目標量を確保するために必要な措置」でございます。ここでは、献血を推進するための取組みについて示してあります。

第1として、献血に関する普及啓発及び広報活動の実施でございます。輸血用血液の安定供給を確保し、その国内需給を推進するためには、県民に献血への理解と協力をもとめる事業が必要でございます。

まず、重点的な取組みのうち、(1)「若年層、幼少期への普及啓発」では、アの項のとおり、高校生、大学生等の若い献血可能な世代を対象としたリーフレットを作成して献血への理解を呼びかけます。また、令和5年度も引き続き、児童期における献血教育の推進を図るため、小学生の親子を対象とした親子血液教室を開催します。続いて、ウの項にありますとおり、若者向けにSNSなどの情報発信を進めて参ります。

また、オの項、22ページの上段のカにあるとおり、引き続き、血液センターが実施する献血セミナーにより、積極的に学習の機会を設けていきます。なお、国計画(案)の変更を反映し、献血セミナー等をきっかけとして献血に関心を持った方に「ラブラッド」への登録を働きかけていきます。

続いて、(2)「企業における献血の推進」については、令和5年度も引続き、企業において職域の事情に即し、献血セミナーの実施や若年者の促進に協力を求めてまいります。

(3)の「複数回献血の推進」については、若年層を含む幅広い層の方々に御協力いただけるよう、血液センターとも協力し、キャンペーンを実施して参ります。

(4)の「献血推進キャンペーン等の実施」では、7月の「愛の血液助け合い運動」を始めとした各種献血キャンペーンを協力団体の後援のもとに、実施して参ります。また、QRコード等

を掲載したインターネット上の情報にアクセスしやすい啓発資料を作成、配布等することにより、献血への理解と協力を呼びかけます。

2の献血運動推進大会の開催につきましては、例年どおり、7月に愛知県の献血運動推進大会を開催し、知事感謝状等の功労者表彰を行って参ります。

なお、資料の41ページから42ページにかけて、献血推進のための方策案について具体的にお示ししてあります。カッコ内の太字団体が実施主体となって各種事業を展開して参ります。

戻りまして、資料の23ページ上段、第5「献血の推進に際し、特に配慮すべき事項」についてです。まず、今後も、1のとおり県民に正しい知識や献血の必要性を普及啓発して参ります。また、2のとおり、問診の徹底など血液製剤の安全性を向上させるための対策を推進し、3のとおり、献血者が利用しやすい受入時間の設定等、献血者の利便性に配慮してまいります。

次に、第6「その他献血の推進に関する重要事項等」について説明いたします。資料の23ページ下段を御覧いただきまして、3（2）のとおり災害時には、血液センターが献血者の安全に十分配慮したうえで、県及び市町村と連携して、献血への協力を呼びかけ、医療需要に応じた血液確保を図って参ります。

それ以外の事項としまして、広報につきましては、愛知県のホームページ、県提供の番組や広報誌を活用することはもとより、機会があるごとに、報道関係者の方々の協力もいただきまして、県民へのPRを行ってまいりますので、引き続き、関係機関の方々の御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

議長・小栗部長

ただ今の説明にありましたとおり、令和5年度計画における献血の目標量、目標人数が前年度計画から変わっております。その設定について、愛知県赤十字血液センターの木下委員、御説明をお願いできますか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

はい。ただいま事務局からご説明ございましたけれども、令和5年度計画の目標数等の変化につきまして、私から補足説明をさせていただきます。

資料30ページご覧ください。令和5年度の献血目標人数はご説明の通り全体で286,070人でございます。前年度は297,970人でしたので、前年度から11,900人減と大きく減少しております。今回減少の大きな理由としましては、国の原料血漿量項目量が減少したことによるものでございます。

少しご説明させていただきますけれども、原料血漿の確保につきましては、平成15年度以降は毎年の需給計画を定め、血漿分画製剤の安定供給の確保が図られているところです。

令和4年度におきましては、血液製剤の製造販売業者等の供給見込み及び原料血漿並びに製剤の在庫見込みのほか、日本赤十字社で持っております貯留在庫を勘案し、配分量122万リットルに対し、原料血漿確保目標量は125.3万リットルでございました。

それに対しまして令和5年度においては、国内献血由来製剤の最近の需要の動向及び血液製剤の製造販売業者等が保有する、原料血漿並びに製剤の在庫状況のほか、日本赤十字社の貯留在庫の状況を踏まえ、安定供給に必要な原料血漿を確保する観点から、配分量120万リットルに対し、確保目標量が120万リットルとされました。令和4年度から53,000リットルの減少となり、愛知県では約4,900リットル減の71,760リットルとなっております。

こうした全国的な原料血漿の確保目標量の減少により、特に血漿成分献血を中心に目標人数を減らすことになり、愛知県の血漿成分献血につきましては、令和4年度の84,390人から13,470人減少の70,920人を予定しております。

目標人数の減少の理由については以上となりますが、原料血漿の必要量は減少傾向にあるわけではなく一時的なものと考えております。

来年度につきましても引き続き採血基準の範囲内で献血者の体重に応じて数量を確保するとともに、輸血用血液製剤の製造工程においても効率的な手法により、原料血漿の確保に引き続き努めて参ります。

また本年の事業概要でもお話しましたが、Web会員サービス「ラブラッド」会員の登録推進と会員アプリを用いた献血予約率のさらなる向上など、アプリ機能の有効活用により、献血者の確保に努める所存です。

また、血液を安定的かつ効率的に確保するため、年間複数回にわたり献血にご協力をいただけるような各種キャンペーンや、感染症の流行に左右されず、安定的に協力を得られやすい献血ルームへと献血者を誘導する移行キャンペーン等の実施を考えております。

次世代への啓発事業としましては、学生だけでなく、学校関係者、教員やPTAなど、一般の方々を対象とした献血セミナーや、施設見学等も積極的に実施し、受講後には献血に誘導できるような取り組みを考えております。私からの説明は以上でございます。

議長・小栗部長

ありがとうございました。それでは、ただいま説明のありました「令和5年度愛知県献血推進計画」を含めまして、御意見、御質問がありましたら、御発言をいただきたいと思います。

それぞれの立場から広く御意見をいただくため、申し訳ございませんが、私の方から指名させていただきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

先程、事務局の説明にもありましたように、献血に御協力いただいた方々のうち約6割が会社員、企業の方々です。労働者のお立場からの意見として、日本労働組合総連合会愛知連合会の安達委員いかがでしょうか。

日本労働組合総連合会愛知連合会・安達委員

はい。労働組合からの立場で、ご発言させていただきたいと思いますが、企業と労働組合と労使ともに献血の事業にご協力させていただいておりますが、この協議会においてですね、企業側の出席者というのは、例えば経営者協会さんとかの出席者がいてもいいのかなと思いました。以上です。

議長・小栗部長

また、検討をしていきたいと思います。何かこのことについてご意見、よろしいですか。

ありがとうございました。次に日頃から献血の推進などについて、地域に密着した活動をしていただいております、ライオンズクラブ国際協会334-A地区の尾方委員いかがでしょうか。

ライオンズクラブ国際協会334-A地区・尾方委員

私は名城ライオンズクラブに所属していますが、栄の血液センターで毎年10月の中旬ごろに街角でティッシュ配ったりしています。それだけではちょっと足りないと思って、私自身が経営している予備校で、毎年その時期に各教室にポスターをいっぱい貼っています。生徒は高校生の大学受験メインの予備校で、あと名古屋大学医学生と名市大医学生が100人ほどバイトしていて、彼らに声をかけると大学で献血しているという話を聞きますが、その裏付けはありません。そこで血液センターの方にお伺いしますが、本当に各大学の医学部で献血をしているかわかりますか。若い子たちに献血をしてもらいたいのですが、その実態を私は把握していないものなので。また、高校生が生徒ですから彼らに献血をして欲しいと思いますが、強制はできないためポスターだけは貼っています。私自身が生徒に献血をしてほしいと声をかけても、彼らが帰って、保護者に話すのもちょっとはばかれますし、これからの参考に、先ほど申し上げました大学の医学部でどれぐらい献血をしているかを調べて欲しいと思います。

また、私が保健委員長をさせてもらってしまして、あちらこちらのクラブに顔を出してお願いしています。献血や小児がんと色々なものについて声をかけますが、クラブによっては一生懸命やっています。ただ、献血に関してはライオンズクラブとして、すべてのクラブで5500人ほどメンバーがいますが、すべてのクラブで献血に関しては、一生懸命やってもらっていると思いますので、引き続きやってみようと思っています。以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございました。今大学の医学部という話が出ましたけど医学部ということもあるでしょうけれども、例えば大学だとか高校の献血の推進の話についてはですね、事務局の方から何かあれば、いかがでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

血液センター木下です。どうも貴重なご意見ありがとうございました。

大学、特に医学部生ということで今お尋ねがありましたので、ちょっと正確に全体像を所長の立場でも把握できてないところもございますが、例えば鶴舞の名大の医学部さんにはバスを持って行ってそちらでご協力いただくというようなことも行っております。

それ以外にも大学等にも過去、相当バスを持って行っておりましたが、ご存知の通りコロナ禍にございまして、リモート授業が一般化してあまり学生さんがキャンパスにおられなかったりして、コロナ禍においては大学等へバスが持っていく数が減ったという事実はございます。

それ以外にも例えば医療機関などですと、赤十字病院などには時々お伺いしてそちらで献血にご協力いただくようなことも行っておりますので、医学関係、医療関係の方にもいろいろと献血にご協力いただくような機会を作るようには努力しているところでございます。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

愛知センターの事業推進の中津留と申します。

県内の大学につきましては、今のところわかっているだけで12校ほど、今愛知県内でご協力をいただいております。ただ先ほどご質問がございました。医学部生の方々の人数というところまでは、ちょっと把握はできておりませんので、また帰ってまた調べておきたいなというふうに考えております。すいません。以上でございます。

一宮市市民健康部保健所長・子安委員

一宮市保健所長の子安です。今大学がどうかというお話で、1例ですけど、私は半田保健所長を以前3年間やっていたんですけど、その時に管内の美浜町さんがかなりたくさん実績を出していましたが、年度が変わってからぐっと減っちゃって。

そしたら担当者の方が、日本福祉大学の学生さんが美浜のキャンパスでたくさん献血をしていたって、それでキャンパスが東海市に変わったものですから、東海市の実績が変わって東海市がぐんと伸びて美浜町が減ったっていう、福祉大学はやっぱり福祉大学ですので、熱心にやっていたというふうに認識をしております。以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございました。では次に女性の立場を代表しまして、愛知県地域婦人団体連絡協議会の倉元委員いかがでしょうか。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

いろいろなところでですね、献血をされているようで、大変いいことだと思います。ただ私どもの会そのものが高齢化になっていまして、献血ができない、ほとんどの方ができないですけれ

ども、この若年層というか若い方の献血の数を増やすためにはどうしたらいいかということ等を一生懸命企画して見えると思います。よく色々な場所で見かけますので、どうしたらいいかというところとあれですが、私たち地域婦人団体連絡協議会はほとんど母体赤十字奉仕団の母体となっておりますので、少しですね、啓発数ということも考えつつ、自分たちはできないですけども、会員の皆にそれぞれ啓発しまして、若い人たちに向けて協力していきたいと思っております。

今後ともこのようにいろいろな場所での献血というのは、表を見ますと、数が上がっておりますので、いろいろ考えて続けていけたらいいなと思っております。また、この「ラブラッド」というウェブですね、もうこれはもう今は絶対必須だと思いますので、この人数も増えると、面白がってというところと変ですけども、増えていくのではないかなと思っております。よろしく願いいたします。

議長・小栗部長

どうもありがとうございました。今の話でも出ましたけれども、推進事業の柱の一つとして、若年層の推進が挙げられております。学校における献血に関する知識の普及や学校献血等について愛知県公立高等学校長会の馬場委員いかがでしょうか。

愛知県公立高等学校長会・馬場委員

校長会の馬場でございます。今お話聞いておりましたリーフレットを配っていただいたりポスターを配っていただいたりしているにもかかわらず、高校生の献血の数が少ないということで、申し訳なく思っております。引き続き学校で配布して、啓発活動に努めて参りたいと思っておりますが、やはり学校では、外で行ってくださいということまでしか言えないものですから、なかなかお力になれないというところで、申し訳なく思っております。

核となる学校でセミナーか何かを開いてですね、そこを中心に各学校から代表者を集めてセミナーを開いたりしていただいて、そこを核にして献血の意識啓発に努めていただくとか、そういったことも、効果的なのかなあと考えております。以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございました。それではですね、すいません。女性の立場からもう1人、名古屋市地域女性団体連絡協議会の伊藤様、いかがでしょうか。

名古屋市地域助成団体連絡協議会・伊藤委員

名古屋市地域女性団体連絡会の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

一つご提案をさせていただきたいのは、私どもは成人式にいつも名古屋市ではお手伝いをさせていただきます。そのときに、20歳に今、名古屋市はほとんど20歳で成人式をやっていますけども、20歳になったら選挙に行こうという、選挙管理委員会からの申し出で、選挙に行きましょう

とお声掛けがありますけれど、はたちの献血とありますが、献血に行きましょう、献血はどうですかという声は、全然聞こえてこないものですから、よければ成人式では親御さんもたくさん見えますし、本人たちも成人式に出て見えると思いますので、選挙と同じように献血というのがいかに大事かと、もう少し彼らに学生さんも見えますし社会人も見えますので、よければもう少し広報なさったらどうかと私は思いました。

それと今、名古屋駅前のタワーズとかに、うちの息子もそうですけど会社員が皆さん行かれるそうです。そこで血液を取られる前に検査をしていただくから、健康診断ができていいよという話もしていましたので、皆様会社員とか若い方がそういうところに行かれれば、もっともっと献血が広がるんじゃないかなと思っていましたので、少し申し上げました。よろしくをお願いします。

議長・小栗部長

はい。ご意見2点いただきましたけれども、はたちの献血はかつてからいろいろとやっているところですが市町村さんによっても取り組み方ちょっと違うのかもしれないですけど、このことで、もし何かご意見等あれば、いかがですか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

貴重なご意見ありがとうございます。木下です。成人式で選挙と関連付けた広報でということに比べると、献血の広報が弱いついていうご指摘をいただいたと承知します。

毎年「はたちの献血キャンペーン」を行っていますが、やや訴求力が弱いというご指摘だったのかなと思います。

成人式の時にその会場でというご提案だったと思います。血液センターとして可能かどうかということも少し検討させていただきたいと思いますが、晴れ着を着ている方から採血をすると、晴れ着に血液が付着するようなことがないように神経を使うところもあることについて、ご理解いただければと思います。

それから健康診断を受けることができるというお話もこれも非常に重要なご指摘だと思います。先ほどからご説明がありますラブラッドでは、はがきで検査結果通知が届く前にスマホアプリで検査結果が確認できる機能を実装しており、健康管理目的での献血ということについて赤十字としても注力しているところでございます。

さらにまたそういうところも広報して、いろいろと皆さんに広く知っていただいてご協力いただける機会につなげていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。

名古屋市健康福祉局・長屋委員

名古屋市の生活衛生参事をしております長屋と申します。

名古屋市の成人式で献血について、あまりPRがなかったというご指摘でしたが、成人式ではたくさんいろいろなものをPRしたいということで、いろいろなところが希望されるため、かな

り制限があるところがございます。その中でもやはり献血も大事ですし、今ご指摘いただきましたので、一度担当課から、そういった成人式を利用し何かできないかということは検討させていただきたいと思っております。

名古屋市としましても、はたちの献血キャンペーンには、ウェブサイトを活用したり、今までは市長コラムに載せたり、漫画を作るなど様々な形で若い方々への啓発は行っているところです。今ご提案いただきましたので、一度検討させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

議長・小栗部長

はい、ありがとうございます。それではですね、先ほどの公立高等学校長会の馬場様からご意見いただきましたが、高校の献血の状況ということでお話をいただきましたが、それと同じく愛知県私学協会の澤田委員いかがでしょうか。

愛知県私学協会・澤田委員

愛知県私学協会の澤田と申します。私学協会というのは56ある私学の合議体ということですので協会が旗を振って何かするっていうことができないものですから、私は、天白区にございます東海学園高校の教頭ですので、本校でちょっといろいろ教員に聞いてきましたけれども、現状、とにかくリーフレットを配布して終わりという形になってしまっている。先ほど10代の献血の数が減っているとのことでしたので、いくつか教員に聞いたんですけども、例えばその理系で医療関係を目指す生徒に対して献血の意義等を講義していただくとか、何かセミナーをしていただくとか、ただ配るのではなくてやはり主体的に生徒に考えさせて献血が大事だということを考えさせることもいいじゃないかという意見はありました。

それから、これはどこでもできるというわけではないでしょうが資料の方にも市町村別の配車実績とこれ献血のバスだと思いますが、バスをこれだけ出しているだけで、例えば本校は文化祭でキッチンカーを呼ぶのですけれども、その並びと言ってはなんですが、その中に1台献血のバスを入れたらどうかという意見も教員から上がって参りました。

それぞれ私学は建学の精神に則って学校運営しておりますので、それぞれの私学でやり方があるかと思いますが、文化祭等行事等で学校に献血のバスを出していただければ、何らかのこの10代の献血実績には貢献できるのかっていうことは思いました。以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございます。次に、今後の献血を支える若い世代への献血啓発活動について、愛知県学生献血連盟の湯口委員いかがでしょうか。

愛知県学生献血連盟・湯口委員

愛知県学生献血連盟委員長の湯口と申します。よろしくお願いします。

一大学生の意見として言わせていただきますと、あまり献血について詳しく知らない大学生が多いのかなというふうに感じます。献血の現状であったり、詳しく知らない方が、多く見受けることが、活動して見受けられるので、各大学でのセミナーであったりなどを増やすと、もう少し若年層の献血者数を伸ばせるのかなと思います。以上です。

議長・小栗部長

はい、ありがとうございます。そしたらですね、献血の推進には報道機関も大変大きな役割を果たしておられます。そういったお立場から中日新聞の市川委員いかがでしょうか。

中日新聞・市川委員

中日新聞の市川でございます。よろしくお願いします。

私から3点質問したいと思うのですが、まず1点目は非常に基本的なことで申し訳ないですけども、先ほど事務局の方からですね、昨年及び本年度の献血者及び集まった血液の量ですね、これは必要量を確保できているというご説明がございましたけれども、これ、愛知県で集められた血液が愛知県で使われる、そういう意味でしょうか。いわゆる各県の自給自足体制で行われているんでしょうかってことをちょっとお伺いしたいと思います。

2点目はですね、2025年に向けて団塊の世代が後期高齢者に入っていくということで、医療費がかなり上がっていくというふうに見込まれています。医療需要も今後上がっていくと思われませんが、5年10年のスパンで結構ですが、これからの血液がどの程度、さらに必要になってくるのかという見込みがあれば教えていただきたいと思います。

それからもう1点はですね、針が痛いから献血は嫌だという人が一定数いるのではないかと私は思いますが、小児科などでは痛くない注射針というものが取り入れられてきているというふうには聞きますが、献血ではそういうものも取り入れることはできないのでしょうか。例えば、お金の面とかですね、技術的な面で、というものを伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

議長・小栗部長

この件について、いかがですか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

はい。ご質問ありがとうございます。

まず必要量を各県で確保できているかということですけども現在は全国を7ブロックにわけ
るブロック広域体制を10年ぐらい前から敷いております。その中で目標量が一応定められて、

当然県としての目標量を達成するように努力しているところでございます。それでもばらつきが出るときにはブロックの中での需給調整、或いはブロックを超えた他ブロックとの需給調整も行っております。基本的には各県の需要については自県で採血するように努力しています。そのようにご理解いただければと思います。

それから5年10年の中長期的な見込みのことについてお尋ねがありました。これは日本全体の人口が少し減っていくという見通しもございますので、若干血液の使用量が減少していくという見通しが示されております。

それから3点目、採血が痛いということで、痛くない針のことは私自身もちょっと具体的によく承知しているわけではございませんが、献血に必要な針は、ある程度太いものを刺さないといけないということがございまして、そういう性質上、どうしても痛みが避けにくいところがあると思います。あとは鎮痛剤を貼付するというのも一部医療機関で行われる場合があるかもしれませんが、それは薬剤を使用するような問題があつて当然そういう場合にはまた副作用の問題が生じる可能性を考慮する必要があります。現在具体的に検討している状況でないとご理解いただければと思います。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

すいません。愛知センター事業部の中津留と申します。

先ほど、私どもの所長の木下の方からご説明させていただいた通りでございますが、もう少しだけ補足をさせていただきますと、最初の質問の必要量は確保できているのか、ここに関しましては、先ほどもお話をさせていただいた通り、全国を七つのブロックに分けておりまして、広域事業運営体制というものを敷いております。まずここは先ほどお話しした通りでございます。当然ながら過不足というのが出て参りますので血液に対しても、それは全国の中で調整を兼ねて、足りないところには、少し若干余裕のあるブロックもしくはセンターから他府県の方に出す、逆に貰うというようなことをしながら、医療需要に答えているという状況になります。この医療需要ってということを端的にお話しますと、供給の事業に対して、採血がですね、やはりどうしても検査で落ちる方とか、いろんな方がいらっしゃいますので、採血は大体102から104%ぐらい確保していけないと医療需要が賅えないということになりますので、我々はそこを目指して、計画を立てて、採血を行っているというのが実情でございます。

それと血液の将来の見込みにつきましては、5年後10年後という予測はすでに厚労省の方でも出させていただいておりますので、赤血球に対しては2025年あたりが今の現在のピークになるんじゃないかという事で、若干ですが落ちていくだろうということで推測は出させていただいております。また血漿とか血小板につきましても、横ばいというような予測も出させていただいておりますので、ここ、5年ほどについては、今現状の供給量が維持されるのではないかなというふうに考えております。

最後の針の部分についてはちょっと私の専門外でございますので、ご容赦いただきたいと思えます。以上でございます。

議長・小栗部長

よろしかったですか。はい、ありがとうございます。続きまして行政で広報に携わっております広報広聴課の鈴木担当課長、いかがでしょうか。

政策企画局広報広聴課・鈴木担当課長

愛知県広報広聴課の鈴木です。先ほどからの皆様のご発言をお聞きしておりまして、やはり広報活動と申しますか、啓発活動というのがもう非常に肝だなという印象を持っております。事務局の方でも資料のご説明がありましたけれども、非常に様々な広報活動啓発活動をされておられますが、私どもの方でも県全体で使っていただけるように、テレビですとか、ラジオですとか、新聞ですとか、いろんな媒体を持っておりますので、そういったものをご活用いただくなどして、広報啓発活動にご協力できたらいいなと思っております。以上です。

議長・小栗部長

ありがとうございます。次に実際に医療を行う立場から、名古屋大学医学部附属病院の松下委員いかがでしょうか。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

名大輸血部の松下でございます。

先ほどちょっと別件で医学部生がどれだけ献血をしているのかというご質問をいただきました。5年生の病院実習で学生110人ぐらい、大体6、7人ぐらいの17グループで来て、全員の班に聞いていますけれども、献血に行ったことがある人は大体20%弱ぐらいですね。実習の場で現在の20代の献血者数が減っていて、君たちが医療を担うころには血液製剤が取り合いになるかもしれないよっていう話をするとちょっと上がるということがございます。さっきのセンターのご説明にあったように、年2回鶴舞キャンパスにバスが来てくれるので、一定の職員の献血者は出ますが、医学生、結構忙しいので、なかなか昼間献血に行っている時間が取れないというのが現状かと思えます。

それで私ちょっと質問したいのは、資料の30ページの4年と5年度の推進計画、これ国がある程度原料血漿をこれだけ欲しいということで、それを愛知県でこれだけ取れるっていう計画をいつもお願いしているんですけども、令和5年度以降、いわゆる置換血小板の採取体制が導入されてくると、ある程度取れる血漿の量とかが変わってくると思うので。そうするとおそらく献血目標人数っていうのも変わってくるんじゃないかと思いますが、そのあたりは令和6年度以降あ

たりから導入されてくるときに、どういうふうに変わってくるのか、もし見込みをお持ちでしたらちょっと教えていただきたいのですがいかがでしょうか。

議長・小栗部長

センターさんいかがでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

松下先生どうもご質問ありがとうございます。血小板製剤の変更についてですけれども、まず当面予定されているのは常温で保存される製剤で細菌混入による細菌感染症のリスクの低減というところが、当面の目標になっているということで、細菌培養検査を導入した血液製剤の供給というところを最初に予定しているところでございます。

その時点では血漿置換したいわゆるPAS置換血小板のようなものがそこで同時導入されるという予定ではございませんので、まず細菌検査導入後にその置換血小板っていうものが導入される方向で検討されていると聞いております。具体的にどれぐらい血漿がとれるのかについてお答えできる数字は持っておりませんので、ご了解いただければと思います。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

はい承知しました。血小板製剤に関しては細菌検査の方が先行しているので、置換血小板の話は少し遅れそうだったという印象は持っているんですけど、また数字がわかっただけひ教えていただけるといいと思います。

もう一つは、血漿は分画に回る分と、あと実際に輸血用として使用される新鮮凍結血漿があるわけですが、今愛知県で新鮮凍結血漿として供給されているもので、男性由来以外のものは今大体どれぐらいの率になっているかわかりますでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

松下先生すいません、480と240、120と3種類血漿はございますが、120と240については99%以上が、男性由来でございます。

それから480に関しましては、私が数年前にちょっと聞いたところでは、70%以上が480ということでございますので、男性由来のものということとTRALIの関係という部分で、ご質問だと思いますが、ほぼ、今現状では480は若干女性由来のものが混じっているということだけご理解いただければと思います。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

大学病院とか高度医療機関の手術室で結構たくさん使用される場合にはかなり480をオーダーされることが多いので、副作用の発生状況を見ていると、あんまり減っていないかなっていう印

象を持っています。その辺の数字とうまく合っていることは、こちらがよくわかりました。引き続きよろしくお願ひします。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

かしこまりました。

議長・小栗部長

はい、ありがとうございました。ただいまご発言をいただいた以外の方で、ご意見ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

(質問なし)

それでは事務局は最終的な国の計画と、本日の会議の内容を踏まえまして、計画の作成をお願い申し上げます。

○ 閉会

議長・小栗部長

これもちまして令和4年度愛知県、献血推進協議会の議事を終了させていただきます。

皆様のご協力によりまして、滞りなく議事が進行いたしましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、皆様方におかれましても、今後とも、本件の決定事項について引き続きご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

次に進行を事務局にお返しします。

医薬安全課・稲熊担当課長

はい、ありがとうございました。それでは以上もちまして、本日の協議会を終了したいと思います。皆さんお帰りの際には荷物、上着等ですねお忘れないように気をつけてお帰りいただけたらと思います。

本日はどうもお忙しいところありがとうございました。